

ウェスタンブロット・ELISA 用

免疫反応促進試薬

# Can Get Signal®

Immunoreaction Enhancer Solution



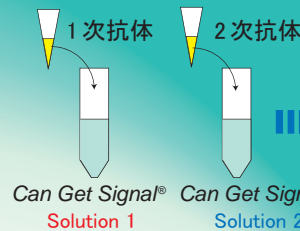
無償サンプルをご用意しています

サンプル請求

ウェスタンブロット・ELISA 等の  
感度不足・特異性でお困りの方、  
一度お試しください。

「PCR 酵素に専用バッファーがあるように、  
ウェスタンブロットにも専用バッファーが必要なはず」  
そんなコンセプトから開発を行いました。

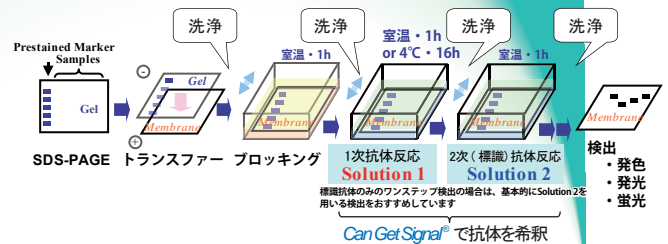
● 使用方法は簡単！



抗体を直接希釈して  
使用するだけ！

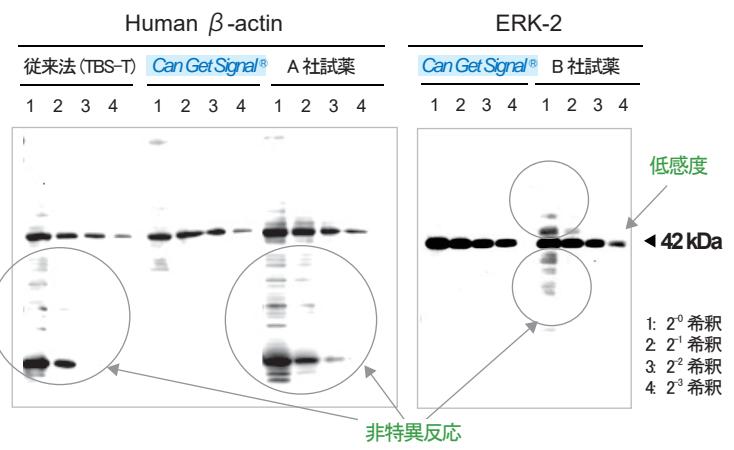
※ 酵素標識、および蛍光標識抗体で使用可能です。  
※ 現在お使いのブロッキング試薬や検出試薬を  
変更する必要はありません。

## ■ 操作フロー (ウェスタンブロット)



## ■ 実施例 ウェスタンブロットによる各種タンパク質の検出

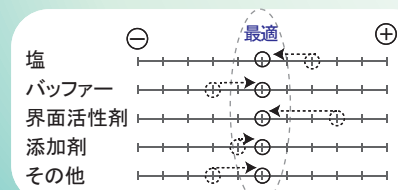
HeLa 細胞のライゼートをサンプルとして、ウェスタンブロット法によって Human  $\beta$ -actin、および ERK-2 の検出を行いました。その結果、従来法 (TBS-T 使用)、他社試薬に比べ、Can Get Signal® を用いた場合、明らかなシグナルの増強と、特異性の向上が見られました。



反応性アップ

バックグラウンド  
低減

抗体の節約



## IE (immunoreaction enhancing) technology

PCR 用バッファーはポリメラーゼの活性や特異性を引き出すために種々の工夫が重ねられてきました。一方、ウェスタンブロット用の反応液 (抗体希釈液) は汎用バッファー (TBS-T, PBS-T) やブロッキング試薬などが使われるだけでした。そこで多変量解析法を用いて、抗原抗体反応を最適条件で行うための条件を絞り込み、Can Get Signal® を開発しました。

品名および内容	包装	Code No.	価格 (税別)
Can Get Signal® Immunoreaction Enhancer Solution Solution 1 for primary antibody Solution 2 for secondary antibody	各 250mL × 1 本	NKB-101	¥ 33,000
Can Get Signal® Solution 1	250mL × 1 本	NKB-201	¥ 19,000
Can Get Signal® Solution 2	250mL × 1 本	NKB-301	¥ 19,000
PVDF Blocking Reagent for Can Get Signal®	500mL × 1 本	NYPBR01	¥ 15,000

※Solution 1 と 2 は、それぞれ 1 次抗体と 2 次抗体に対応しています。

(保存・輸送温度: 4℃)

※PVDF Blocking Reagent for Can Get Signal® は Can Get Signal® を用いるウェスタンブロット解析に適した人工合成ブロッキング試薬です。目油株式会社により専用製品として製造されています。

# Can Get Signal<sup>®</sup>

## immunostain

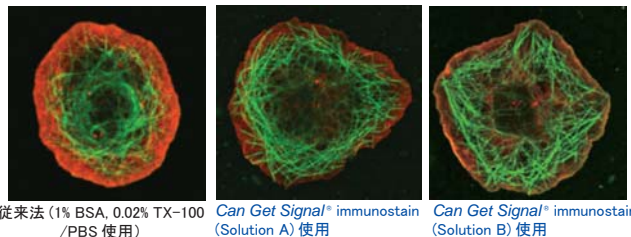
- 組織・細胞に対応
- パラフィン包埋切片・凍結切片に対応
- ABC 法やポリマーコンプレックス法などの併用も可能

免疫染色における感度不足・特異性でお困りの方、是非一度お試しください。

### 実施例 1 Schneider 2 (S2) の alpha-tubulin 染色における従来法との比較実験

*Drosophila* 細胞株 [Schneider 2 (S2)] から、2 次抗体として Alexa Fluor<sup>®</sup> 488 標識 anti-mouse IgG を用いて、alpha-tubulin の検出を行いました。その結果、従来法ではやや diffuse であったチューブリン束のシグナルが鮮明に検出されました。また、細胞内のバックグラウンドと思われるシグナルが減少傾向にありました。特に、Solution B の方がシグナルが若干強い印象を受けました。

※データは、京都大学・研究員様よりご提供いただきました。



従来法 (1% BSA, 0.02% TX-100 / PBS 使用)

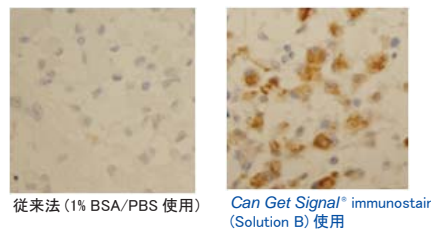
Can Get Signal<sup>®</sup> immunostain (Solution A) 使用

Can Get Signal<sup>®</sup> immunostain (Solution B) 使用

### 実施例 2 CD133 免疫染色における従来法との比較検討

ヒト脳腫瘍 (グリオブラストーマ) に発現する CD133 を、パラフィン包埋切片をサンプルとして検出を行いました。1 次抗体には Rabbit polyclonal to CD133-Stem Cell Marker を用い、1 次抗体の希釈は 1%BSA/PBS、もしくは Can Get Signal<sup>®</sup> immunostain (Solution B) にて行いました。検出は EnVision<sup>™</sup> (Dako ChemMate) を用い、DAB 発色にて行いました。その結果、従来法で微弱なシグナルが、Can Get Signal<sup>®</sup> immunostain を使用することで増強されることが分かりました。

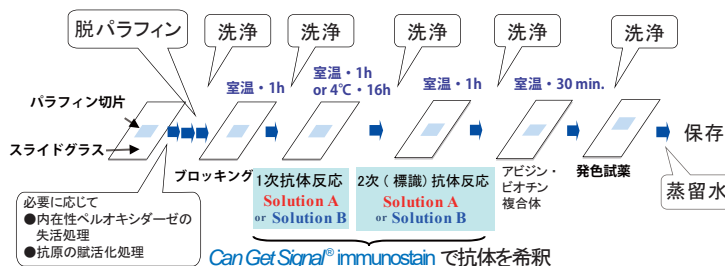
※データは、北海道大学大学院 医学研究科 分子細胞病理学分野 野田頭未歩先生、笹井研先生よりご提供いただきました。



従来法 (1% BSA/PBS 使用)

Can Get Signal<sup>®</sup> immunostain (Solution B) 使用

### ● 操作フロー (ABC 染色)



### 数々の論文は信頼のあかし

Can Get Signal<sup>®</sup> を用いた論文は国内外の多くのピアレビュー誌に掲載されています。Google 等を用いて確認してみてください。

“Can Get Signal”

検索

品名および内容	包装	Code No.	価格 (税別)
Can Get Signal <sup>®</sup> immunostain Starter Set Solution A, Solution B	各 5mL × 1 本	NKB-401	¥ 14,000
Can Get Signal <sup>®</sup> immunostain Solution A	20mL × 1 本 (20mL × 1 本) × 4	NKB-501 NKB-501X4	¥ 33,000 ¥ 77,000
Can Get Signal <sup>®</sup> immunostain Solution B	20mL × 1 本 (20mL × 1 本) × 4	NKB-601 NKB-601X4	¥ 33,000 ¥ 77,000

\*Solution A と B は、それぞれ単品で使用いただく設計になっております。1 次抗体用、2 次抗体用にそれぞれが対応しているわけではありませんのでご注意ください。  
Solution A と B は免疫反応の促進作用が異なります。最初にご使用いただく際に Starter Set [Code No. NKB-401] を用いてご検討いただくことをお勧めしております。

(保存・輸送温度: 4℃)

※多くの場合において、使用する抗体の量を減らすことができます。

※本資料に記載している会社名および商品名・ロゴマークなどは、各社の商号、商標または登録商標です。

## TOYOBO 東洋紡株式会社

### バイオプロダクト営業部

(E-mail) order\_lifescience@toyobo.jp

(大阪) 〒530-0001

大阪府大阪市北区梅田一丁目13番1号  
大阪梅田ツインタワーズ・サウス  
TEL 06-6348-3786 FAX 06-6348-3833

(東京) 〒104-8345

東京都中央区京橋一丁目17番10号  
住友商事京橋ビル  
TEL 03-6887-8819 FAX 03-6887-8951

### テクニカルライン

(E-mail) tech\_osaka@toyobo.jp

TEL 06-6348-3888 FAX 06-6348-3833

(9:00~12:00 13:00~17:00 [土日祝日、休日を除く])

### WEBサイト

[<https://lifescience.toyobo.co.jp/>]



toyobo公式X